会 議 録

会議名 (付属機関等名)		川西市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)		美化衛生部 美化推進課		
開催日時		令和7年5月15日(木) 午前10時～11時46分		
開催場所		川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員 (敬称略)	花田 真理子 (会長)、千葉 知世 (副会長)、植木 信嘉、大田 正、岡田 須美子、柳 歩、佐藤 恵美、西田 美恵子		
	その他	猪名川上流広域ごみ処理施設組合 事務局次長 堀 伸介 (オブザーバー)		
	事務局	美化衛生部 部長 飯田 勸、副部長 宇野 功哉、美化推進課 課長 大島 弘章、主査 中田 ちさと、主査 多田 博幸、主事 三嶋 裕也		
傍聴の可否		可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <p>3. 会長・副会長の選任について</p> <p>4. 議事</p> <p>(1) 指定ごみ袋の有料化実施方針とごみ量の報告 (速報値) について</p> <p>① 指定ごみ袋の有料化実施方針 <資料 1-1></p> <p>② ごみ排出量 (速報値) <資料 1-2、1-3></p> <p>(2) 国の方針と市のリサイクル事業について</p> <p>① 第5次循環型社会形成推進基本計画の概要 <資料 2-1></p> <p>② ふくれル (リユース子ども服譲渡事業) のジモティー活用 <資料 2-2></p> <p>③ 製品プラスチックのリサイクル <資料 2-3></p> <p>④ 廃食用油のリサイクル <資料 2-4></p> <p>5. 報告</p> <p>(1) リチウム蓄電池等の適正処理に関する方針と対</p>		

	<p>策について</p> <p>(2) 資源ごみの持ち去り対策について</p> <p>6. その他</p> <p>〈資料3〉</p> <p>〈資料無し〉</p>
<p>会 議 結 果</p>	<p>別紙 審議経過のとおり</p>

審議経過

【開会】
事務局

【開会挨拶】

令和7年度第1回川西市廃棄物減量等推進審議会を開催

司会：美化推進課 課長 大島

出席状況の報告

出席委員8名

欠席委員2名 小寺委員・山脇委員

千葉委員はWebで参加

映像と音声が届いているか確認。

本日の会議について、出席者8名のため条例に基づき本日の審議が成立していることを報告。

当審議会は、参画と協働のまちづくり推進条例第十条第3項の規定に基づき公開。

傍聴者1名

また会議録作成のため当審議会の審議は録音。

【委嘱状交付】

委嘱状の交付：新任委員の紹介が行われ、委員に郵送済みの委嘱状について説明。

- 退任：木村様、榎本様、金子様
- 新任：小寺様（欠席）、柳様、西田様
- 堀事務局次長はオブザーバーとして参加

任期：令和6年11月6日から令和8年11月5日の2年間

【会長・副会長の選任】

審議会条例第6条に基づき、会長及び副会長は互選。

委員より事務局に一任の声を受け、会長 花田真理子様、副会長 千葉知世様を事務局が推薦し承認。

会長

【会長挨拶】

改めましておはようございます。

ただいま会長にというお声をいただきまして、この場に座っております。どうぞよろしく願いいたします。

ごみを減らすということを考えたときに、アップサイクルということが言われています。リサイクルというのは、例えば新聞を集めてトイレットペーパーにするとだんだん質が悪くなってしまい、最後は、ごみとして処理しないといけなくなるのですが、それをレベルを上げて、リサイクルすることをアップサイクルと呼ばれています。

ちょうど大和リースさんという会社がありまして、商業施設の開発などをされているところですが、家賃をいただくビジネスだけではなく地域の方と一緒に地域の発展になるように開発をしていくことを考えて、その方にご紹介いただいたのを皆さんにご紹介しようと思います。こちらのバッグは工事現場などによくある幕です。例えば垂れ幕みたいなものは汚れませんので、それを使ってバッグにしています。とても綺麗というところがみそで、我慢してリサイクルするのではなく、これからごみを減らしていくというときには、そういうちょっとした工夫ですね。

何でもリサイクルすればいいのではなく、アップサイクルしていくことが大切なのと、もう1つ、いろいろな原料で今リサイクルをしているというところ。1つご紹介するのは、これ普通のニット帽ですが、この原料は、ニット製品を作るときにどうしても毛糸の切れ端がたくさん出る、それで作ったニット帽です。

これはエコアルフというところが作っていて、そこのチラシにはビコーズリアライズ プラネットBと書いてあります。

プラネットは惑星です。プラネットAが地球だとすると、よく地球何個分ってという言い方をしますが、実際に地球は1個しかない。2個も3個も無い、プラネットBはない、ということです。

だから、私たちは考えていかなければいけないというのがあったので、ご紹介しました。

これから2年間ですが、皆様と一緒にどうしたら川西の中で、皆さんが楽しくしかも効果的にごみを減らしていくことができるか、ごみをごみと考えないためにはどうしたらいいかを、皆様それぞれのお立場からご発言をいただけたらと思います。また副会長もご専門なので、いろいろな知見を教えていただけたらと思います。

皆様どうぞよろしく願いいたします。

事務局

資料の確認： 事前送付の資料9種類の確認。

会議の進行： 11時半終了予定であることが共有され、議事がスタート。

会長

では次第に沿って進めさせていただきます。

4の議事（1）指定ごみ袋の有料化実施方針とごみ量の報告速報値について、資料1-1のご説明をお願いできますか。

事務局

【資料1-1 指定ごみ袋の有料化実施方針】

【資料1-2、資料1-3 ごみ排出量（速報値）】説明

会長

ありがとうございました。

今のご説明で、もしわかればですが、指定ごみ袋にした場合にどれくらいごみを削減したか、削減率がわかれば教えていただきたい。

事務局

有料化した場合の削減率は、いくらの袋の値段に設定したのかで変わります。昨年度にまとめたところでは、有料化をする前とした後で、1ℓ当たり1円で設定した場合については1割ぐらいが下がってるような形です。

それ以上の金額、2円とか3円にするとまたそれ以上に下がっている傾向があります。

会長

今回、新しく委員になってくださった方のために経緯を申し上げますと、実は審議会の中では有料化をどんどん進めていったほうがいいのではないかと、近畿圏の自治体が有料化を進めている状況や、かなり厳しい目標設定になっているので、有料化したほうがいいのではないかとという方向で話が進んでいたのですが、今ご説明があったように、順調に減っているから、これ以上有料化をしなくてもいいのではないかとという意見が出てきた、ということなんです。有料化することが目的ではないので、順調に減っていくことができるかこれから見守っていきましょう、というのが現状です。

資料1-1にありました反対意見の中で、税の二重取り、税込で賄うべきというご意見とかがありますが、これは今、タダでやっていただいているような気持ちになってしまうが、実はしっかりお金がかかっていてそれは税金から支払われている。

たくさん出しても少なく出しても、税金から支払われるということは不公平になる、ということがやはりわかってらっしゃらない方がかなりいらっしゃるのと、ごみ袋を買うということで負担感が出てくることでそういう誤解に繋がると思うので、このあたりはやはり啓発をすごく丁寧にしてい

く必要があるというのを感じました。

私も数回ではありましたが説明会に参加させていただいて、その基本的なところにも誤解をまだまだたくさんの方が持ってらっしゃると思いましたが、ここら辺はこれから丁寧に考えていかないといけない。

それから、達成状況を毎年ご報告ただけて検証するというのですが、審議会にも報告していただけるということは、裏を返すと審議会でちゃんと検証していきましょうということだと思いますので、委員の皆様どうぞよろしくお願いいたします。

ちょっと補足をさせていただきましたが、資料1-1から1-3をご覧ください、ご意見とかご質問とかありますか。

委員

タウンミーティングでの意見で賛成のところに、事業系のごみも有料にすべきというのは、これはごみ袋を有料のごみ袋にと言われてる方がいたということでしょうか。

事業系ごみはもともと有料で処理してもらっており、ごみが増えれば料金を上げて、減らせば料金を下げましょうというのをごみ処理業者とやっています。これの目的としてはごみを減量するために有料にするということなので、もともと事業系のごみに関しては、ごみ量によって料金が変わるので、減らせばごみの減量に繋がります。私自身もごみの減量で言うと、事業系はもともと昔は、物を作るときに仕入れて最後にどうしても残ってしまい廃棄するものが多かったのですが、今現状でいうと、材料に関しては極力ロットの少ないところの業者に切り替えるとかをやって、ごみの減量を行っています。

どうしても使ったら全部使い切れずに廃棄してしまってた。食品の廃棄は意外と飲食業やってると多いので、少し値段が上がってもロットの少ないところを選んでやる事業者さんが多いから、ごみの減量に繋がってるのではないかと思う。もし今後こういう意見が出たときは、説明をしてもらいたいなと思いました。

事務局

委員のおっしゃる通りで、このタウンミーティングに参加される方が、その事業所さんがどのようにごみを捨てて、そのごみを今、どこの事業者も減らしていこうという努力をされているところはご存じなかったのかもかもしれません。

この発言というのが、家庭から出るごみを有料化するのであれば、それ

の対にある事業所レベルでもしたらいいのではないかという発想でおっしゃってるものだと思います。

その際にも、事業所ごみというのは有料で集めて、それを収集業者さんは国崎クリーンセンターにお金を払って捨てているというご説明をさせていただきながら、伝えています。

会長

やはりわからない方が結構いらっしゃるというのはすごく感じました。

事業者の方は、ちゃんと廃棄処理をするコストをご自身で持ってらっしゃるので廃棄物を減らすところに繋がっているわけで、現状は家庭ごみは税金で賄っており、減らす努力は報われないしそれから意識もしない。決められたときに決められたところに出せばいいと思ってしまうというところがあるので、そこら辺も説明の必要があると思いました。

副会長

コメントにはなるのですが、市民の方々からいただいたご意見を見ると、大きく6つぐらいに観点が整理できるという見方をしています。

1つ目は効果。制度そのものの効果がどれくらいあるのか。

2つ目が、公平性とか公平感と言ってもいいと思いますが、頑張っごみを減らそうとしている人たちへの配慮とか、その負担に対する公平感が持てるかどうか。

3つ目が、今物価高もある中で当面の負担の増加。当面の負担も或いは2重課税と言うちょっと理解が難しいというところもあって、経済的な負担があること。

4つ目がデメリット。不法投棄とか、ルール違反のリスクがある。

5つ目が、条件。対象とするごみをどうするか、基本的にその実施自体はOKだが、どういう条件で行うのかという観点。

6つ目が対価。利便性とか、それをやることによってどういうメリットが得られるのかで、大きく整理できるのかなと思いました。

1つ目が、それぞれ市民の皆様が気にされる点が、おそらく個々のライフスタイルであったり、ご職業であったり価値観というところで異なってくると思いますので、バランスよく今会長も強調いただいたようにこうした観点から、我々の中でもこの制度に対する理解とかデメリットへの前もっての対処を可能にしてくれるものだと思いますので、いろいろなリスクを洗い出させていただいていると受け止めて、きちんと説明をしていくことが、すごく大事なのかなとお聞きをしていました。

2つ目が、有料化を見送るという判断に関して、ご説明いただいたように令和8年度の実施見送りで、今後その目標の達成状況を見ながら判断ということ自体に反対をするものではないのですが、目標値だけ見ていいのかという観点も持つておく必要があると思っています。

というのも、将来的に人口が減っていったって税収が減少していくかもしれない中で、一方でごみインフラの更新とか維持というのは今後、相互のコストがかかってくるので、対人口に対する相対的な負担というのが高まってくる。

そういう中でごみの減量をしていくということ自体がコストと連動していく必要があると思うのですが、ごみの減量そのものが財政負担の軽減ときちんと連動していれば、ごみの減量値で判断していくことでいいかもしれないのですが、本当にそうなのかの検証と、もし必ずしもごみの減量化がコスト軽減に連動出来ない場合、将来的な長期的な政策の効果というところも考えて、判断していく必要はある。

なので、単年度単年度で見ていくというよりは将来的にかかってくるコストとかも踏まえて、有料化をするかしないかは考えていく必要があるのかなと思いました。

以上2点です。

会長

最初、意見の分類というところで、まさに短期的な利便性と長期的な利便性とあって、長期的な利便性をご説明するのはなかなか難しい。

それから、意見の中に幾つかあったが、例えば袋の大きさの種類を使いやすいようにいくつかそろえていくとかで、負担感を減らしていくこともできるのかなと思ったので、この意見を反映させながら考えていくことは大切かと。

2つ目の点ですが、本当に難しくて長期的に見るか、目標値の単年で見ていくのでいいのかというのはまさにご指摘の通りですが、その長期的な判断を求めるのが政治的に難しいところがあるかなと思ったりしております。

だから、あの部分それはすごく大切な視点ですので、ぜひ、これから審議会としても考えていく必要があると思いました。

事務局

実際タウンミーティングを回らせていただくと、ごみを減らすことはいいことだという思いを持って実際に活動されてる人もいれば、ごみを減ら

しても何もメリットがないという人までいたり、本当様々な人がいます。生活の実態もそれぞれで、どんな袋を設ければいいのか、金額はどれぐらいでどこで買えたらいいのか、その金額によって得られるメリットは何か、とそれぞれの方でいろんな思いを持っておられました。

そのあたりのバランスをとりながら、川西市はどんな有料化をすればいいのかを検討したのが、昨年度の事です。

袋についても4種類10リットルから40リットルぐらい設けるべきじゃないかとか、金額についても阪神間なり近畿圏で見ていくと、1リットル1円程度が目安になってるので、それぐらいに設定すれば理解を得やすいのではないかというところを検討してきたところです。

ただ、今回の流れでいくとごみを減らすことが目的で、ごみが今減っているのであればそれを有料化すべきではないという意見は当然あるので、そのあたりを踏まえて今回の実施方針にさせていただいたという流れです。

あともう1点、費用については、将来的に見てごみが減るということは行政のコストも減っていくところも非常に大切な視点だと思っています。

どうしても、運ぶためにかかる経費と処理するための経費とで、処理もちゃんとすれば有価物として売れるものもあるので、廃棄物というのはどのようにしていけば皆で負担を軽減出来て、社会にとっても市税にとってもいいということを根強くお伝えしていくことが大事と思っています。

ですので後程ご説明させていただくのですが、いかにリサイクルに回すのか、地道に分別をしっかりしていこう、ということをお伝えしていくことが大事と思っているところです。

委員

初めて参加させていただいています。

事業系のごみという事業とは、どういう単位での事業でしょうか。大きいところや、1店舗の小さなところも含むのでしょうか。

事務局

事業系のごみというのは家から出るごみではなくて、どんなに小さい事業所さんであっても大きな工場であっても、そこから出るごみのことを言います。

その中で産業廃棄物と一般廃棄物に分類されて、わかりやすいのが工事現場とかになると、いろんなものがそれぞれバラバラに置いてあったりすると思います。

あれはリサイクルされるために行くような形で産業廃棄物になります。そうではない事業系の一般廃棄物というのもあり、それが飲食店さんから出てくるものだと食べ残しであったり、紙であったりとかが該当するというものです。

委員

薬局からもらう錠剤のシートはリサイクル可能なんです。

普通はプラスチックとして全部出しているのですが、それを個別に分けてリサイクルすると、プラスチックとアルミニウムに再生利用できるというシステムを横浜市全体で個別回収しています。

分包後のシートは全部産業廃棄物で出して処理してありますが、それはもったいないなといつも思ってるんです。

そういう取組は東京地区で実施されているなら、先駆けて出来たらいいなと思っています（例：シート1～10枚で1ポイント、1ポイント＝1円。日本では13,000トン/年のシートが使用）。

事務局

その廃棄物を出す原因になった会社が、自分の会社のCSRというのでしょうか、地域の環境のために活動するという分類のことはいろんな会社でされているようで、そういった情報も得ながら市としては連携していきたいと考えています。

ですのでそういった情報をいかに仕入れて、こんなことありますよというようなことをお伝えしていくのは大事ななと思っています。

会長

さっき薬のびんの話がありましたが、確か化粧品とかのびんは出せないんですよね。あとは、ものすごく小規模な、何かおうちの軒先でたこ焼き屋さんやってるみたいな規模のところは、2袋ぐらいを出してもいいとなっている自治体もあるみたいなんですけど、川西市さんはそういうことはないのですか。

事務局

事業所のごみは事業所のごみとして収集させていただいています。

そういうふうな事案があれば指導させていただいております。

会長

薬のシートの話をしていただいたのですが、これから本当に小さなものでも集めていくとかなりの量になるという例の一つとしてコンタクトレンズのケース、使い捨てだと毎日出ますよね。あれを、アイシティさんだっと思うのですが、箱を置いて集めるのをされてて、大学に2ヶ所置いていただいて集めると、結構な数になる。

だからシートも、アルミだったらとても貴重な資源だと思うので、川西市さんでアルミが資源として有効活用されるとすごくいいかなと思いました。

事務局

びんの件だけご報告させていただきます。

化粧品のびんを何で出したらいいのか、通常のものでしたらすすいでいただいて、びんとしてお出しいただいたら結構です。

ものによりますが、例えばマニキュアなど取れないやつは別扱いになりますが、通常のある程度のものというのは、化粧水ですとかそういったものはびんで出していただくようにご指導させていただいています。また排出の手引きというのを本市のほうで出していますので、それをご覧いただきながら、排出いただければありがたいです。

会長

色別の回収をされているのも分別をする意味を説明していただくと、分別に協力しやすくなるかなと思うので、そこら辺もよろしくお願ひしたいと思います。

事務局

【資料2-1 第5次循環型社会形成推進基本計画の概要】

【資料2-2 ふくれル（リユース子ども服譲渡事業）のジモティー活用】

【資料2-3 製品プラスチックのリサイクル】

【資料2-4 廃食用油のリサイクル】説明

会長

まず最初に国の方針について、今までにも増して、やはり循環というところに重点が置かれる施策かと思っています。

それから、「ふくれル」のジモティー活用ということですが、これはいいなと思いました。例えば季節ごとの恒例行事みたいにすると市民の方も待ってくださると思うので、できるだけその地域の中で資源があるのがいいなと思うのと、コストとか場所が必要とかじゃないのですごくいい活用かなと思いました。

製品プラスチックのリサイクルについては、国崎クリーンセンターということは、川西市の他に3つの自治体さんと一緒かと思っています。この前もごみ排出量割合をお聞きしたら、川西が大体7割、あとの3つの町が合計3割なんだそうです。ということで、プラスチックリサイクルを変えていくときにいい機会なので、4市町合同で何かイベントをやっていくことで啓発されたらいいのかなと思いました。

委員 製品プラスチックと、プラスチック製容器包装と、違いが理解出来ない。

事務局 プラスチック製容器包装というのが、この分け方出し方の中にあり代表的なもので、お肉とか入ってるトレイとか、あとは卵のパックとかインスタントラーメンの袋とか、食品のことが多い。あとは発泡スチロールとか緩衝材のプチプチとか、そういったものがプラスチック製容器包装と言っているもので、それらにはカタカナで「プラ」というマークが書いてあります。

プラスチック製品というのは、例えば石鹼を置くようなトレイみたいな、プラスチックばかりでできている製品を言っています。

委員 今、プラで回収されてるのはみな燃やされてるのですか。

プラスチックの日に出してるものは、現実にはクリーンセンターで燃やしてるわけですか。

事務局 プラスチック製容器包装とプラスチック製品とまた違うので、プラスチック製品のほうについては燃やすごみと一緒に出てますのでそのまま燃やしています。

委員 さっきおっしゃったのはみんなプラで出してますよね。

事務局 そうではないんです。

プラスチック製容器包装の日というのが川西は週1回水曜日です。水曜日にはトレイとか袋とか、「プラ」と書いたものだけがまとまってごみに出てるという状態になっています。

委員 そしたら、製品プラスチックは燃やすごみに出してる。

事務局 はい、燃やすごみとしては週2回になるんですけども、そのときに一緒に出していただいています。

委員 みんな現実には、クリーンセンターに見学に行ったときも生ごみと一緒に出してもらったほうがいいと言っている。

要は本当の生ごみだけやったら燃やしにくいから、プラって書いてあるけど包装紙なんかは燃やすごみで生ごみと一緒に出してもらったほうが、いいですということで、我々は正直言ってあまり分別しないです。だから今家庭では、燃やすごみに出している。

事務局

いや、そうでない方のほうが多いです。

会長

すごく汚れていて洗うのが大変なもの、マヨネーズとかああいうのは、洗うと下水が汚れるのでそちのほうが大変だから、燃やすしかないみたいなご説明ではないかと思うのですが。

オブザーバー

今おっしゃっていただいたプラスチック類は、基本的に石油から出来ているので温度を上げやすいというのがありますが、今現在容器包装プラスチックという「プラ」マークがついているものは、いろんなもの、ラーメンの袋とかにも付いていますが、あれは別に収集していただいていますので、国崎クリーンセンターには容器包装のプラスチックだけ入ってきます。そこで手選別で、今会長おっしゃった汚いマヨネーズとかが付着したままのものなど、そのまま出せないものを取り除いた後は、循環してまた卵のトレーとかに戻るように、それを搬出してまたプラスチック製品に変わっています。

もう1つですね、例えばお風呂で湯をかける全部プラスチックで出来ている洗面器とか、ハンガーで上は金具じゃなくて全部プラスチックで出来ているやつとかを製品プラスチックと呼んでいます。

それは容器包装プラスチックに入れるのではなくて、可燃ごみで混ぜて、国崎のほうに来ています。

その100%プラスチックで出来ている製品を、今後皆さんに分別していただくという方向で向かおうとしています。

今は、容器包装プラとして「プラ」マークのついている分の分別のみということです。生ごみに入ってるプラスチック類を取り出すのに、今後みなさんにご協力いただくことになります。

委員

ペットボトルのキャップはどうしたらいいんですか。
なんかやるんだって皆ためてるのですが。

事務局

ペットボトルのふたはプラスチック製容器包装に入れてもらいます。

キャップが何かに役に立つかもしれないというのでキャップを集めて、何か寄付活動されてるような事業者さんにまとめてお渡ししてるというケースかと思います。なのでたまったものはそういう団体さんにお渡しいただけますか。

事務局

キャップは今担当課長が申しましたように、事業所ですとかいろんなところがボランティアの活動資金になるということで集めるケースというのがあるようです。

例えば、ある学校ではそれをやっていて、学校で声掛けして集めるということで、それを肢体不自由な方へ車椅子購入のためのボランティア活動や環境問題を考えるきっかけにやりましょうということでやったりするケースがありました。今されてるところがもともとの目的が多分薄れて、何のために集めてどこに出したらいいかというのが、時間の経過で薄らいでいる可能性があると思います。通常の廃棄物として処理することは可能ですので、またそこはご確認いただければありがたいと思います。

会長

分ければ資源になる。

だから、先ほどの製品プラスチックもプラスチックとしてまた余生を送ってもらおうと思ったら、分ける必要があるわけです。

今のキャップの話も、プラスチックと一概に言っても幾つか種類があるんですけど、ペットボトルはペットですけど、キャップはPSでしたっけ、別のプラスチックなんです。だから、分けておくとそれを使って作るリサイクルがすごくしやすいので、リサイクルに回す業者さんに買い取ってもらえるわけです。その買い取ってもらった資金で、例えばこども食堂を支援するとか、途上国の子供のワクチンをといるのを以前はよくやってました。だから、大学でもペットボトルのごみ箱の横にキャップのごみ箱を置いただけで分けてくれます。

何で分けるかっていうと、さらにリサイクルがしやすいように分けてる。だから、分けたのが向こうに行ってごっちゃになるということはまずなくて、何のために分けてるかと言えば、そこで分けたらあと生きるから。分けなかったら燃やされる。燃やされるときにさっきおっしゃってくださったように、プラスチックは石油製品なので、燃料の助けにはなるでしょうから、ものすごい悪いことではないが、CO₂も出るし、プラスチックとしても、第2の人生を送ってもらったほうがいい。

だからそれで分けましょうってことになっています。

オブザーバー 今おっしゃっていただいたプラスチックが、うちのゆめほたるを見学いただいたときの案内でプラスチックは入れていいというお話があったというのであれば、それは我々が皆さんに啓発している内容とは違います。先ほど言いましたようにプラスチック製容器包装がなくてもプラスチックはどうしてもごみに混じっておりますので、それで十分に温度維持ができます。焼却炉というのは1度火をつけますと、ごみの成分で燃えてガスとかそういうのを足さなくても、常に安定して900度とか850度で燃えるようになっております。たまに温度が下がるときは、バーナーといいまして、火を入れて温度を上げたりする調整はしますが、現状のごみで逆に新たにプラスチックをたくさん必要となるような焼却炉ではございませんので、我々としては、もっとプラスチックが分別出来たほうが炉の安定にもいいという状態です。

もしご説明で、そういうことがあったら国崎に戻りまして、事実確認して、今後の説明の仕方の改善に向けたいと思います。

会長 生ごみは水分が多いので、水分を切ったら燃えやすくなるのでますますいいことですね。生ごみのことも考えていかないといけないなと思って、お聞きしておりました。

でも今聞いていただいてよかったです。

やっぱり理解していただいたら分別が進むと思うので、そこら辺もそれぞれの立場で啓発をお願いしたいと思います。

委員 リサイクルということでペットボトルですけど、川西市内にも事業者さんで自販機を置いてるところがあって、自販機の横に置いてあるのはごみ箱ではないんです。あれはリサイクルボックスという目的で置いているのですが、ただ、皆さんが理解していなくて、ごみ箱と違っていろんなものを入れられて、結局はリサイクルが出来ないという話を聞いたことがある。あれはもうちょっと明確に、市民の方があれはリサイクルであってごみ箱ではないっていうのを理解出来たら。

会長 実は飲料メーカーさんもすごく工夫されてて、大阪府がプラスチック対策の協議会があってそこでお聞きしてて、横に置くごみ箱をどうしたらごみ箱じゃなくて、缶とかペットボトルの入れ物ということが分かるかということで、入れにくく下のほうから入れるようなことをすると、混入は減るが、今度は入れにくいから入れてもらうのが減るということで、今試行錯誤みたいですよ。

あと、多分確信犯も居るのではと思うところがあって、それは駅とかでもごみ箱がすごく減ってますよね。

自販機で買ったものではないが、いい所にごみ箱がと思って入れる。例えばジュースの紙コップとかを見たことがあります。すごく難しいのですが、まずはあれはごみ箱じゃないということ。それをメーカーさんもすごく工夫されているのですが、なかなか正解が出ないというようなことでした。

だから、きれいに分けたら第2の人生を送ってもらえるということと、きれいに分けると価値があがる。今までお金を払って処理してもらっていたものが、今度は原料になるのでお金を払いましょう、になるわけです。そうすると収入になる。川西市さんも、質がいい廃ペットボトルというのは価値がつくので、収入になるということを考えると、もっとやろうと思っただけかなと思います。

委員

質問です。

クリーンセンターで実施している基幹的設備改良事業というのは、具体的に何なのか教えていただきたい。

オブザーバー

国崎クリーンセンターの稼働が、平成21年から1市3町のごみを受入れて処理してきました。16年目になり、焼却炉は一般的にどこの焼却も劣化してきます。

その中で、毎年補修はしていくのですが、おおよそ大体20年、もう一度長期的にさらに長く使うということで、大規模な修理、改修をしようということで今計画を進めております。

工事の計画は、令和8年度から11年度まで4年間かけて全面的に更新をする部分や補修する部分があったりということで、家でいうと大規模リフォームするというイメージで実施しようとする事業を、基幹的設備改良事業という言い方で進めているところです。

委員

その改良の部分というのは、全部のごみを燃やすことができるような、例えば尼崎だったら全部一緒なんです。それはもう何もかも一緒なんです。そういうことが、改良の中に入ってるんですか。

オブザーバー 工事の内容的には現状の状態をもう一度長持ちできるようにやろうという
ことで、炉のタイプを変えるというようなことではありません。

ただ、先ほどプラスチックの話がありましたが、今は容器包装プラスチックという「プラ」マークのついているやつだけを集めてるのですが、今後製品プラという、プラスチックで出来たバケツとかハンガーとかも分別で搬出していきたいとなると、若干施設を改造しないといけないところがあります。一部、新たに今までと違うことをするところがありますが、大きくは今使っている施設をもう1回よみがえらせるというイメージを持っていただければと思います。

会長 では、次に報告に移りたいと思います。

事務局 【資料3 リチウム蓄電池等の適正処理に関する方針と対策について】
【資料無し 資源ごみの持ち去り対策について】

会長 1つ目のリチウム蓄電池ですが、思いがけないところに入っているという話を聞いています。これはご存じかもしれませんが、皆さん持ってるハンディ扇風機とか電子たばこの充電器など、どこに入ってるかとか、何がこれに該当するかを啓発するところがまず大切かなと思いました。

次に資源ごみの持ち去りですが、公表か罰則かというようなあたりですが、罰則を実行するのはなかなか難しそうと思うところがあります。でも一方で公表というのは、個人は公表されたら恥ずかしいとかあるんですけど、業者的なすごい勢いで軽トラで走って回収しまくるという話も聞きます。イタチごっこになってるみたいで、注意するだけでもそのあたりが難しいなと思います。

また今パブリックコメントをされるというお話でしたので、皆様もぜひそういうところにもご意見を出していただけたらと思います。

この件に関しまして報告2つありましたが、何かご意見、ご質問ありませんか。

委員 市のほうで管理をされている、長さの規定がある。40センチを超えたら大型ごみになる。40センチ超えても、早朝置いておけばうまいこと業者が持っていつてくれる。金目なものは、なので助かる面もある。6時ごろに置いたら、業者がグルグル回ってるから持って行ってくれる。要は、切ったら市のほうで回収してもらえが、長いからこれ多分駄目だけど、業者が回収していった。

事務局　　そういう実態があるかもしれないですが、それは公式なものではないので、あまりそういう案内はしていただかない方がありがたいです。

実際に、不用品をもらいますみたいなチラシが家に入ることもあるのですが、それを使っていただくより行政の収集なり、それから一般廃棄物の業者さんなりに対して出していただくやり方が前提となっているので、よろしく願いいたします。

事務局　　担当課長が申し上げたお願いといいますのは、適正処理という意味合いで、最終処分がどのようにされているかわからない。

許可を受けていない業者が持ち去るという行為自体が、回収したあとの処理がわからないところに、我々環境を預かる者としては看過出来ないところがありますので、やはり適正な処理をしていただける事業者でしっかりとやっていきたいというところをご理解いただきたいと思います。よろしく願いします。

会長　　40センチがもうちょっと60センチにしたらいいのではみたいな話は考えてもいいのかもしれない。

40センチ、いや60センチぐらいだと大体フライパン入るのではみたいなんだったら、と思うんですよ。

事務局　　今40センチ超えるものは、大型ごみで出していただいています。ただ、食品の缶はカンで集めるので40センチを超える大きなカンであってもカンで集めています。

フライパンの取っ手も入れたら40センチ超えるというものがあったりすると思いますが、そういったものは基本的には大型ごみになるので、そういう対応でお知らせさせていただきます。

委員　　廃油の件で思ったのですが、川西の清掃事業協同組合さんが廃油を集めてて、事業所さんだったら油は無料で来ますので出してくださいという案内は受けてて、多分ディーゼルエンジンに使う。

川西市でもそういうことをやってるので、廃油もどこか捨てる場所があったら、だいぶリサイクルできるのではないかなと。市内の中で何ヶ所か、ポリタンクなどがあってそこに捨ててくださって言ったら、意外と市民の人は捨てに来るのではないかと思います。

会長

市内でもそういう業者さんがいらっしゃるのですね、事業所対象には。なので、またご参考にしていただけたらと思います。

実は大学で昔、菜の花を育てて、BDFでバスを走らせようとやったことがあります。

その昔はそらえもん号というソーラーパネルを載せた車が大学にあり、それを展示場に持ってくときに自走出来ないからトラックで行くのですが、そのトラックの軽油ディーゼルにその菜の花から取った燃料オイルを使うとすごくシステムとしてきれいで、ただし法律上5%までしか混ぜてはいけない。すごく規制が厳しくて、5%分には税金がかけられない。だから、5%以上入れると脱税になってしまう。それで、ちゃんとその混入率が5%以下になるようなプラントを作りなさいと。大学にBDFにするプラントはあった。だけど、燃料に混合するプラントまではお手上げだということで確か養父市まで持って行って、フォークリフトに使っていただいたと思います。

だから、そういう取組みが回りやすくなるような仕組みは大切だと思うのですが、妙なところでお堅い。わからないでもないんですけども。

洲本市では家庭や事業所さんから集めて、確かコミュニティバスを走らせてたと思いますが、そこも市がやってる事業で定期的に税の担当者の方がチェックに来る。なかなか厳しいもんですとおっしゃってました。

あとは阪急さんが、電車でBDFを使うのはなかなか難しいですが、摂津市駅でしたっけ。CO₂排出ネットゼロの駅にしましたし、それから阪急さんはBDF100%のバスを走らせていたと思います。路線バスで何台かですけど。

そのもとは阪急のレストランとかホテルとか、経営しているところから出てくる廃油だとお聞きしました。

家庭からの廃油は、このように使えると思いますが、皆さんまたお知恵を絞っていただけたらと思います。

私が住んでるところで廃油を集めて廃油石鹼を売るというのをやりましたが、廃油はすごく集まるのですが、石けんは売れない。だから、何に使うかが大切ですねリサイクルは。集めるのも大切ですけど、使ってもらえるものにするということが大切かなと思いました。

それでは、これで議事全て終了ということで、皆様どうもありがとうございました。

事務局

事務局に進行をお返しいたします。

では本日は、これもちまして審議会を終了いたします。
ありがとうございました。

終了時刻：午前 11 時 46 分